蓮　田　市　歴　史　年　表

※赤字は重要事項。青字は水に関すること。

時代	時期	年代	世界・日本のできごと	関東・埼玉県内のできごと	蓮田市周辺のできごと
旧石器時代		30,000年前	クロマニョン人が出現する（70,000年前） 日本列島の各地に人々が住み始める 海水面が今より100m下がる		天神前遺跡・宿下遺跡・井沼遺跡などに初めての足跡
縄文時代		約15,000～12,000年前	土器作りが始まる		宿上遺跡・閏戸吹上遺跡から縄文時代最古の石器出土
	草創期	約12,000～7,000年前	気候の温暖化 海水面が2～3m上昇を始める	中川低地などに海水が侵入を始める 川口市に県内初めての貝塚がつくられる	宿下遺跡から市内最古の縄文土器が出土（約9,000年前）
	早　期	約7,000～5,000年前	花積下層式土器（春日部市）が流行する 関山式土器が流行する（関山貝塚） 黒浜式土器が流行する（黒浜貝塚群）	中川低地（古東京湾）や荒川低地（古入間湾）などに海水が侵入する（最大海進：古河付近まで）	市内で初めての貝塚ができる（天神前遺跡：約7,000年前） 黒浜地区を中心に多くの貝塚が形成され、大きなムラができる（約6,000年～5,500年前）　黒浜貝塚群等の形成　国指定史跡黒浜貝塚
	前　期	約5,000～4,000年前			海水が市内から離れていく 宿下遺跡に大きなムラができる 馬込八番遺跡に大きなムラができる ヤマトシジミ（小さな貝塚）
	中　期	約4,000～3,300年前		中川低地に海が再び侵入する（小海進：春日部付近まで）	雅楽谷遺跡に大きなムラができる　オオタニシ（小さな貝塚） 井沼遺跡に大きなムラができる
	後　期	約3,300～2,400年前	安行式土器（川口市）が流行する エジプト文明が始まる（紀元前3,000年頃）		久台遺跡に大きなムラができる チリメンカワニナ（小さな貝塚）
弥生時代	前　期	紀元0年	西日本で稲作の開始と鉄器の使用が始まる 中国で漢が全国を統一する（紀元前202年） 東日本に弥生文化が広がる 倭の奴国王が後漢（中国）へ使いを送る（57年）	中川低地に人々が進出する 弥生の小海退（海面が2m下がる） ⇒低地部の良好な水田面が現れる（稲作に適した環境）	宿下遺跡に再葬墓がつくられる
	中　期	200年	卑弥呼が魏（中国）へ使いを送る（239年）	吉ヶ谷式土器（東松山市）が西部を中心に流行する	
	後　期				久台遺跡に方形周溝墓がつくられる
古墳時代	前　期	400年	大和政権が国内を統一する 高句麗と戦う（好太王碑：391年） 倭の五王が中国に使いを送る 須恵器が国内で製作され始める	五領式土器（東松山市）が流行する	ささら遺跡・山の内遺跡にムラができる 「手焙形（てあぶりがた）土器」などが西日本から搬入される
	中　期	500年	竪穴住居にカマドが作られ始める 仏教が伝わる（538年） 聖徳太子が摂政となる（593年）	稲荷山古墳（行田市）へ「金錯銘鉄剣（辛亥銘鉄剣）」が副葬される（471年） 埼玉古墳群（行田市）が造られる（5世紀後半～7世紀初）	椿山遺跡、馬込八番遺跡に市内初の古墳がつくられる →馬込八番遺跡に埴輪を持つ古墳がつくられる（埼葛初） 荒川附遺跡に大きなムラができる オオタニシ、イシガイなど（小さな貝塚）
	後　期	600年	大化の改新が始まる（645年）	南比企・東金子などで須恵器生産が始まる	
	終末期	700年	古墳・横穴墓が群集して造られる 皇朝十二銭の最初の和同開珎が鋳造される（708年）	秩父で和銅が採掘される	十三塚古墳群・椿山古墳群・ささら古墳群がつくられる
奈良時代			奈良に都（平城京）がおかれる（710年） 国分寺建立の詔が出される（741年）	毛野川（鬼怒川）洪水（記録に残る最も古い洪水） 武蔵国に高麗郡が置かれる（716年）	荒川附遺跡で初めての鍛冶屋が営まれ、土師器が作られる　オオタニシ、イシガイなど（小さな貝塚）
平安時代		800年	京に都（平安京）を移す（794年）		（市内各所に鍛冶屋が営まれる）
		900年	承平・天慶の乱がおこる（935～939年）	県内の東半分が平将門の勢力下に入る	椿山遺跡の鍛冶屋のムラが最盛期を迎える イシガイ（小さな貝塚） （蓮田も平将門の勢力下に入る？）
		1,100年	保元・平治の乱がおこる 平清盛が太政大臣となる（1167年）	坂東八平氏や武蔵七党が武士団となる	野与党・渋江党が形成される
鎌倉時代		1,200年	源頼朝が鎌倉に幕府を開く（1185年） →　守護・地頭の設置	最古の板碑「嘉禄三年銘板碑」（熊谷市）が建立される（1227年）	この頃、江ヶ崎城ができる 行蓮が鰐口を寄進する 寅子石が建てられる（1311年） 鰐口が寄進される（1314年）
		1,300年	蒙古襲来（1274,1281年）		
室町時代	南北朝	1,400年	足利尊氏が京に幕府を開く（1336年） 南北朝の騒乱がおこる	最大の板碑（吉田町）が建立される（1369年）	南朝銘の板碑が建てられる（1336年） 崎西郡黒浜、平野で市が開かれる（1361年）
		1,500年	応仁の乱がおこる（1467～1477年） 桶狭間の戦い（1560年）	岩付城（さいたま市）が太田道真・道灌により築城される（1457年） 伊勢長氏（北条早雲）が相模に進出する	市内各所（井沼館跡、閏戸館跡、黒浜新井堀の内）に館が造られる
	戦　国		豊臣秀吉が小田原城を攻める（1590年）	岩付城に太田資正が入城する 忍城（行田市）が石田光成に攻められる	岩付城が落城する（1590年）
安土桃山時代			豊臣秀吉が天下を統一する（1590年）	徳川家康が関東に入府する（1590年）	初めての書状が平源寺に残される
江戸時代		1,600年	徳川家康が江戸に幕府を開く（1603年）		朱印状が平源寺に残される（家光を初め9代分） 円空が市内へも来訪し、仏を残す 閏戸の式三番が復活する 市境に「柴山伏越」、「瓦葺掛樋井」という川の立体交差が造られる オオタニシ（小さな貝塚）
		1,700年	徳川吉宗が8代将軍となる（1716年） 浅間山大噴火（1783年）	見沼代用水が造られる（1728年） 利根川・荒川大洪水（1742年）	
		1,800年			市内での洪水が初めて文書に残される（安政6年：1859）
明治時代			明治維新がおこる（1868年） 日清・日露戦争（1894～95・1904～05）	高崎線（上野～熊谷間）が開通する（1883年） 東北線（上野～宇都宮間）が開通する（1885年） 東部を中心に大水害が発生し、大被害を受ける（1910年）	蓮田駅が開設される（1885年） 平野村・綾瀬村・黒浜村が誕生する（1889年） 大水害が発生し、市内も被害を受ける（明治43年：1910年）
		1,900年			
大正時代			第一次世界大戦（1914～18年） 関東大震災（1923年）が発生する		武州鉄道が営業を開始する（1924年）
昭和時代			第2次世界大戦（1939～45年） 太平洋戦争（1941～45年） 昭和の大合併が市町村でおこる 東京オリンピックが開催される（1964年） 日本万国博覧会が大阪で開催される（1970年） 札幌冬季オリンピックが開催される（1972年）	熊谷が最後の空襲を受ける（1945年8月14日） カスリン台風により中川流域が大被害を受ける（1947年） 埼玉国体が開催される（1967年） 関越自動車道（練馬～川越）が開通する（1971年） 東北自動車道（岩槻～宇都宮）が開通する（1972年）	市内の貝塚を学者たちが発掘する（昭和初期） 綾瀬村が蓮田町となる（1934年） 妙楽寺に初めての疎開保育園が設置される（1944年） 蓮田町・黒浜村・平野村の３町村が合併し、蓮田町となる（1954年） 市制を施行し「蓮田市」となる（1972年10月1日） 東北自動車道蓮田サービスエリアが完成する（1972年） 市役所が新庁舎へ移転する（1988年）
現在（平成時代）		2,000年	平成が始まる（1989年） 長野冬季オリンピックが開催される（1998年） 9.11同時多発テロが起こる（2001年） ワールドカップが日・韓共催で開催される（2002年） 平成の大合併が市町村でおこる 若田光一さんが宇宙に長期滞在し、きぼうが完成する（2009年）	さいたま新都心がまちびらきされる（2000年） さいたま市が誕生する（2001年） 埼玉スタジアムでも試合（準決勝）が開催される 彩の国まごころ国体が開催される（2004年）	「閏戸の式三番」を新都心で上演する（2000年） 市制施行30周年（2002年） 蓮田市市民体育館がフェンシング会場となる（2004年） 黒浜貝塚が国指定史跡となる（2006年） 市制施行40周年（2012年）

はじめに　―歴史の舞台へのご案内―

蓮田市は、大宮台地と元荒川低地にまたがり、南東から北西方向に長く、最長11.3㎞に及びます。標高(ひょうこう)は関山1丁目付近などで16.5mと最高点を測り、綾瀬川の低地周辺では8m弱で、高低差は8.5m程あります。

特徴としては、東側台地縁辺では台地の傾斜が緩く低地との区別がつき難く、西側斜面は明瞭に段差を持つ地形を呈しています。これは「関東造盆地運動(かんとうぞうぼんちうんどう)」と呼ばれる地殻変動(ちかくへんどう)に伴うもので、地殻(ちかく)の捩(ねじ)れが西側に片寄ったものと考えられています。また、大宮台地と元荒川低地の台地は標高10m以上にあり、元荒川を挟(はさ)んで東側を白岡・黒浜支台(しだい)、西側を蓮田・岩槻支台と呼ばれる2つの台地で形成されています。沖積地(ちゅうせきち)には市内を北から南に流れる(西から)綾瀬川・元荒川・旧新川などの河川が貫流(かんりゅう)しています。この台地と低地から成り立つ地形が蓮田市のくらしや農業、産業に与えた影響は非常に大きく、先人(せんじん)たちは巧(たく)みに地形を活(い)かした生活をこの地に営んできたのです。

旧石器時代の蓮田　―人々の初めての足跡(痕跡)―

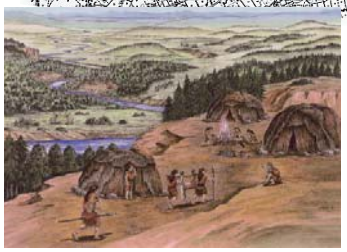
約600万年前に人類の祖先となる二足歩行できるようになった霊長類(れいちょうるい)がアフリカで誕生しました。やがて10万年前に人類の直接的祖先となる新人へと進化し、世界中へと広がっていきました。人々が初めて蓮田市域に足跡を残すのは旧石器時代のことです。氷河期の終わり頃であった当時、気候は寒冷で平均気温も今より5,6度低く、周辺の森もマツやモミなどの針葉樹林が生い茂り、ヨモギやカヤツリグサ等の草地が広がっていたと考えられます。地球上の水分は雪や氷となって陸上に留(とど)められ、大陸とは地続きでナウマンゾウやオオツノジカなどの絶滅した大型動物も活動していたと推測され、人類もこれらの動物を追いながら日本へ、そして蓮田の地へと移住してきました。

関東地方では、東京湾の海水面が現在よりも100m以上低いところにあり、東京湾の入り口付近の浦賀水道付近に海岸線がありました。当然ここに注ぐ河川(「古東京川(ことうきょうがわ)」と呼称される)も急流であり、周辺地域の台地は河川に浸食されて切り立った峡谷(きょうこく)になっていました。今の中川低地(渡良瀬遊水地～春日部～江戸川に至る地域)では、深さ数10mもの深い谷だったと考えられています。また、富士山・箱根山・浅間山などの火山活動も活発であり、大量の火山灰が日々降り注ぎ、この作用によって「関東ローム層」と呼ばれる赤土の堆積が、蓮田市周辺でも3m程度降り積もっていました。

市内で人々が生活を営(いとな)んでいた最古の痕跡は、約2万7千年前の後期旧石器時代まで遡(さかのぼ)ります。その当時は前述のとおり最終氷河期の最中で海は凍りつき、海面は今から平均して約100mも下がり、日本列島は大陸とつながっていました。蓮田市域からは当時、渓谷となっていた中川低地を遥か南に臨み、台地の下には元荒川・綾瀬川・旧新川などの河川が今より約10m(標高－3～4m前後)の低いところを流れていました。旧石器時代の人々は河川に近い場所で生活を営んでいたことが分かっており、蓮田市内からは旧石器時代の遺跡が16ヶ所確認されています。この時代は、後の縄文時代のように土器を作ることはまだ知られておらず、石器(せっき)が生活を知るための重要な手がかりとなります。住居跡なども見つかることは稀(まれ)で、人々は獲物を追って移動する生活を送っていたようです。

ところで、現在の蓮田市周辺では石が採れるような場所は見当たりません。旧石器時代から現在に至るまで人々は石を何処からか入手していたものと考えられます。石器に利用されている石材を調べたところ、黒曜石は栃木県の高原山産、頁岩(けつがん)は東北産のものが多く使われていることがわかりました。春日部市坊荒句北(ぼうあらくきた)遺跡の礫群(れきぐん)では、現在の渡良瀬川流域の河原の礫(れき)とほぼ同じ構成でした。中川低地を流れる河川は上流で渡良瀬川につながり、また中川低地の谷底そのものも石の河原だったことがわかっています。これらのことから、石材の入手には川を遡って産地へ採りに行ったり、中間地点でその地域の人々から入手したり、あるいは眼下の河原から採取したりと、いくつかの可能性が考えられます。いずれにしろ人々が広範囲に移動していたことが窺(うかが)えます。そして、石材の調達の場や移動のルートとして「川(谷)」が果たしていた役割にも注目しておく必要があるでしょう。

猿人から新人への変遷：兵庫県立考古博物館コンセプトブックより



旧石器時代の暮らし（想像）
稲城市郷土資料室（歴史展示室）赤土の中の文化より

旧石器時代の狩猟風景（想像）

旧石器時代には、人々は後のように定住することはしないで、食料(オオツノジカやナウマンゾウなど)を求めて移動しながら生活を営んでいたようです。（稀に住居跡が発見されることもあります。）

人々は食料が余っていても満腹であれば放棄し、空腹でも捕獲ができないときには、ガマンして生活をしていたのでしょう。この頃の発明は、様々な石器を作り始め、火を使うことを始めたことが挙げられます。

旧石器時代には、この移動生活を伴ったため、老齢者は足腰が弱くなり移動できなくなると移動生活から脱落していったことでしょう。